

多くの学生・卒業生が、 全国で就職活動や 大学院進学等で有効活用。

京都産業大学さまは、政府が示している地方創生を後押しするために、20府県と就職に関する連携協定を締結※1しています。例えば、東海・北陸・中国・四国地方で地元企業と本学学生との交流会（2020年度はオンラインで実施）を企画し、UIターン就職を促進するなど大学独自の就職支援を行っています。

学生が地元で就職活動を行う際、近所のコンビニエンスストアで証明書を受け取れる「証明書発行サービス」は、多くの学生に有効活用されています。また、全国に

※1. 2021年4月1日現在



プロフィール | 京都産業大学は1965年に開学し、学祖荒木俊馬が掲げた「建学の精神」を根本理念として、将来の社会を担って立つ人材の育成に注力し、現在まで極めて順調な発展を遂げて参りました。2022年には約15,000名の学生が集う文理融合型のワンキャンパス総合大学となります。

約15万人※1の卒業生がおり、卒業後に海外の大学や他大学院進学等で証明書が必要になった際にも、大学窓口での申請手続きや郵送を待つことなく、地元で発行できるので大変好評を得ています。

導入されたお客さまの声

コロナ禍ではBCP対策の一環として「証明書発行サービス」を活用

■証明書発行機を全撤廃、学外発行へシフト

京都産業大学では、「証明書発行サービス」への移行期間はわずか3ヵ月ほどで、非常にスムーズに行うことができました。さらに、いち早く学外での証明書発行に



担当の岡田光博さま

軸足を移し、導入3年目には学内の証明書発行機を完全に廃止しています。

■利用者、職員双方に大きなメリット

もし、学内の証明書発行機でしか証明書が発行できなかったとしたら、コロナ禍における感染症対策で入構制限をした際、利用者には大きな影響が出たことでしょう。「証明書発行サービス」によるコンビニエンスストアでの発行が浸透していたおかげで、円滑に証明書が発行でき、結果的にBCP対策としても機能しました。

職員側のメリットは、電話対応の際に時間を要していた郵送申請手続きの説明が、「証明書発行サービス」のWebサイトを案内するだけでよく、説明時間が8割減少。また、卒業生向けの証明書発行では郵送申請よりもコンビニエンスストアでの取得が増えたことで、郵送申請にかかる作業量は導入前と比較して6割以上の削減になりました。

導入以来、証明書発行にかかる業務量が大幅に削減できていたことで、コロナ禍での在宅勤務（交代勤務）体制による少人数でも問題なく対応できました。これからは職員の負荷を増やすことなく、証明書発行における学生サービスの質も下げずに、「証明書発行サービス」を提供し続けることが可能です。

